

---

# ARCANGELO

波奈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A R C A N G E L O

### 【Nコード】

N 6 2 5 3 A

### 【作者名】

波奈

### 【あらすじ】

それなりにモテ、平凡な生活を送っていた俊輔は謎の男(?)ユキと出逢い運命が変わっていく。

## 1、アイツとの出逢い（前書き）

初投稿作品になりますので、至らぬところが多々あると思いますが  
ご了承下さい。

## 1、アイツとの出会い

「ッ……………!?!」

風になびく短い茶髪。

細くスラリと伸びた長い手足。

パンクなんだかロックなんだか俺にはわからんけどセンスは良い。  
表情は長めの前髪に隠れて読み取れないが、男ってのはわかる…  
わかるんだけど…………

あ、あれは何なんだ？人なのか？いやでも人間はあんなキラキラ輝かないよな…うん…じゃあ未知の発光体？

……………つまさか幽霊!?

や、んなことどーでもいい……………何で俺のバイクを見つめてんだよ!?  
帰りたくてもバイクを置いてなんて帰れないし…

あゝくそっ 関わりたくないが仕方ない。

「おいっ お前退けよ!」

「はあ?」

何今のドスの利いた声!?  
怖っめっちゃめっちゃ怖い。

「すみません…退いてもらえますか？僕のバイクなんで…乗れないんで。」

下手に出てやったらやつとこっちを向いた幽霊（仮）。

おっ男前だ。

まっ俺ほどじゃないけど…ふふん。

「あゝこれお前のなん？なあ乗せてくれんかな？俺バイク好きなんですよ。」

「えっ………」

図々し〜〜い〜〜！！

絶対B型だコイツ！

「お願い！！乗りたい！！お願いします。」

本当は嫌だけど…

コイツキレたら怖そうやし

怨霊になられても困るしな…

「後ろで良いなら……」

「マジで！？よっしゃーやったー！」

満面の笑みで子供の様に飛び回って喜ぶ男を見てたらこっちまでつられて笑っちゃった。

「ひゃっほー」

「うっさい！黙って乗ってろー！」

少し走ったらすぐに戻ろうと思ったが海が見たいと騒いだヤツのせいで近くの海岸までやってきた。

海を見てはしゃいでいる幽霊（仮）に……おそろおそろ声をかけた。

「お前さあ……」

「ん？」

「名前は？」

「あゝ俺？」

「お前以外に誰が居るんだよ……」

はあ……アホだ。

絶対脳味噌ちっさい。

「んゝ皆からはユキって呼ばれとるよ。」

「ユキ？」

「そつユキ。お前は？」

「俺は俊輔。シュンって呼ばれてる。」

「ふゝんじゃあハルな。」

人の話聞いてなかったんか？

ハルって……ハルって……

俺ハルじゃねえし！！

「なんで？」

「春ってシュンって読むからに決まってるだろ……！」

ア水通り越して頭オカシイよコイツ。でもまあ…

「むゝまあいいか…」

何かおもしろいし楽しい。

人間じゃないことは分かってるけど

いい友達が出来た気分だった。

「ハルっ」

「ん？」

「お前で良かった……俺嬉しい」

「はあ？」

「ん？なんでもない」

初夏の風を身に纏い楽しそうに砂浜を駆けるユキの背中を見つめ首を傾げるしかなかった。





## 2、衝突！？

ユキとの出逢いから1週間。

今ヤツは俺の家に住みついて……いや住み憑いている。

俺が学生で独り暮らしだからって……ありえん……何勝手に住み憑いてんだよ……コイツ。

でもかわりに食事の用意をしてくれてるから文句は言えないんだけど……弁当まで作って貰ってるし。

一緒に過ごしているうちにユキのオムライスが絶品ってこと以外にわかったことがある。

ユキは俺以外の人間には見えない。

「お前で良かった……」

いつかのユキの言葉が蘇る。

俺で良かった？

どういうことなんだ？他人に見えないってのも引つ掛かるし…

…わからん。  
でも…何か…

「ハルっ危ないっ！！」

「ほえ？……っでええ？」

前から迫ってくるトラック。

背中で騒ぐユキ。

あっそうだ俺……バイクで走ってるところだったんだ……。

「ぶつぶつかる…絶対ぶつかる」

「曲がれ曲がれって」

「曲がったら別の車とぶつかるだろ！！あっかっくん」

「だああ！！」

次にくる衝撃にギョッと目を閉じた……

鼓膜を破る程のクラクションと破壊音。

何故か痛くなくて

これが死なんだと勝手に思い込んだ。

俺の人生なんも良いことなかったな…なんて思ったりして。

ユキはどうなったんだろ…アイツは死神だったのかな？

「ハルっ…」

あゝまだ俺にとり憑いてるんだな。

「ハル…ッ…路上で寝るな!!」

「えっ!!…あつ生きてる!？」

「生きてるに決まってるだろ？」

ニカツと笑うユキを見てホッとした。

そしたら急に…泣きそうになった…

「ユキ」

「何？」

「怖かった……」

ホントに怖かった…  
ちびるかと思った。

「……もう大丈夫だから落ち着き…バイクは……お釈迦だけど…まあしゃーないよな!!」

大きい手でワシャワシャと頭を撫でられる。

そうだ助かったんならバイクの一台や二台壊れたって……

………壊れた？

「はあ！？バイク壊れたんかつつ!!」

「しゃーないやんお前助けんので精一杯だったんだから!!助かつ

ただけでも有り難いと思え！！くそ野郎」

「あのバイクいくらしたと思ってんだよ……っってお前が助けてくれたん？」

おゝ見掛けによらずいい奴じゃねえか！！

友情って素晴らしいね

「そりゃこんな格好だけど

一応天使だし？」

「……………天…使？」

困った様に微笑むユキの顔を見つめ硬直した。

天使って……

空想上のもんだろ？

あっなんだろ眩暈がする…

「ハル？ハルっ！？寝るのはベッドと授業中だけにしろってー！」

### 3、俺の力コ

ハルに言った様に俺は正真正銘天使。

幼い頃から背中に翼が生えてて、ごく普通の天使…のはずだった…

ただし周りの天使より変わっていただけ…

それが原因で…父さんに殺されかけ母さんに捨てられて…。

天界で居場所も行き場もなくなつて地上に降りた…まあ孤児天使つてどこか…

地上に降りてからは人間が好きだったから…見てるだけで楽しかった…

いろいろ大変なことは多かつたけど……

幼い孤児天使は悪魔や堕天使に狙われ易い。

だから…まあこの拳と声で切り抜けて来たわけだけど…

あれはまだ俺が地上に降りたばかりでガキだった頃のこと。



あの時ばかりはもう駄目だともった。いつもより位の高い悪魔に狙われ追い詰められていた。

気配を消した悪魔に徐々に生気を奪われていく恐怖。

聞こえるのは自分の尋常じゃない荒い呼吸と鼓動だけ。

背後から殺気を感じた……

そんな絶体絶命の時に神様に出会った。

神様は死にかけの俺を助けて下さり、その上いろいろな話もして下さった。

『天使には保護すべき運命の人間が居る』

その人間には天使の姿が見え声が聞こえる……早く見つけて幸せになりなさい……と神様はおっしゃられた。

その話を聞いて俺はすぐにソイツを探し……そしてハルに出逢った…

嬉しかった。

ホントに嬉しかった…

初めて俺に偏見を持たない奴と話せたから……

アイツは覚えとらんと思っけど…

オムライス作ってやった時に美味い美味い騒ぎながら言ってくれた

「持つべき物は友達だな」

って台詞に俺の命賭けてでも守ってやりたいと思った。

だからアイツは生きてても良いことないって口癖の様に言ってるけど…

寿命まで、しっかり生きて貰う!!

精神的な苦痛は変わってやれんけど…

肉体的は変わってやれるからな！

死神なんて敵じゃない。

友情を知った孤児天使の意地見せたる！！

この拳で…

「なあユキ…お前…生前からそんなにアホだったんか？」

「やつ俺まだ一度も死んでないし……」

「ウソッン」

「嘘じゃねえって…！」

「俺は天使だって…言いたいのか？」

「事実だし…」

「じゃあ……証拠見せて？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6253a/>

---

ARCANGELO

2010年10月10日06時32分発行